

1984 年京大文 [5]

(1)

最初につぼの中に入っていた白球の数が  $i$  個以上、すなわち  $s \geq i$  とする。

$i-1$  回目まで白球が取り出され続け、 $i$  回目に初めて赤球が取り出されるから

$$P_i = \frac{s}{r+s} \cdot \frac{s-1}{r+s-1} \cdots \frac{s-i+2}{r+s-i+2} \cdot \frac{r}{r+s-i+1} = r \cdot \frac{s!(r+s-i)!}{(r+s)!(s-i+1)!}$$

$$\begin{aligned} P_i - P_{i+1} &= r \cdot \frac{s!(r+s-i)!}{(r+s)!(s-i+1)!} - r \cdot \frac{s!(r+s-i-1)!}{(r+s)!(s-i)!} = r \cdot \frac{s!(r+s-i-1)!}{(r+s)!(s-i)!} \left( \frac{r+s-i}{s-i+1} - 1 \right) \\ &= r \cdot \frac{s!(r+s-i-1)!}{(r+s)!(s-i)!} \cdot \frac{r+s-i-(s-i+1)}{s-i+1} = r(r-1) \cdot \frac{s!(r+s-i-1)!}{(r+s)!(s-i+1)!} \end{aligned}$$

$r \geq 1$  であるから、 $P_i - P_{i+1} \geq 0$ 、 $P_i \geq P_{i+1}$  が成立する。(証明終)

等号成立は、 $r=1$  のとき。

(2)

$A$  が勝者となるのは、ちょうど奇数回目に初めて赤球が取り出されたときである。

$A$  が勝者となる確率を  $a$ 、 $B$  が勝者となる確率を  $b$  とすると

$r > 1$  のとき (1) より  $P_{2i-1} > P_{2i}$  である。

$$\text{最初の白玉の個数が } s = 2m \text{ 個のとき } a = \sum_{i=1}^{m+1} P_{2i-1} > \sum_{i=1}^m P_{2i-1} > \sum_{i=1}^m P_{2i} = b \quad \therefore a > b$$

$$\text{最初の白玉の個数が } s = 2m - 1 \text{ 個のとき } a = \sum_{i=1}^m P_{2i-1} > \sum_{i=1}^m P_{2i} = b \quad \therefore a > b$$

いずれにしても、 $r > 1$  のとき  $a > b$ 、すなわち  $a > \frac{1}{2}$  である。

$r = 1$  のとき (1) より  $P_{2i-1} = P_{2i}$  である。

$$\text{最初の白玉の個数が } s = 2m \text{ 個のとき } P_1 = P_2 = \cdots = P_{2m} = P_{2m+1} = \frac{1}{2m+1} = \frac{1}{s+1}$$

$$a = \sum_{i=1}^{m+1} P_{2i-1} = \frac{m+1}{s+1} = \frac{s+2}{2(s+1)} > \frac{1}{2} \quad b = \sum_{i=1}^m P_{2i} = \frac{m}{s+1} = \frac{s}{2(s+1)} < \frac{1}{2} \quad \therefore a > \frac{1}{2}$$

$$\text{最初の白玉の個数が } s = 2m - 1 \text{ 個のとき } P_1 = P_2 = \cdots = P_{2m} = \frac{1}{2m} = \frac{1}{s+1}$$

$$a = \sum_{i=1}^m P_{2i-1} = \frac{m}{s+1} = \frac{s+1}{2(s+1)} = \frac{1}{2} \quad b = \sum_{i=1}^m P_{2i} = \frac{m}{s+1} = \frac{s+1}{2(s+1)} = \frac{1}{2} \quad \therefore a = \frac{1}{2}$$

以上により、 $a \geq \frac{1}{2}$  が示された。(証明終)

※理系 [5] との違いは、 $a = \frac{1}{2}$  となる条件を求められていないだけで、ほぼ共通問題である。